



★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください

①オスはなわばりを守って大忙し — ダチョウ —

おもにアフリカのサバンナに生息している現生鳥類の最大種で、寿命は30～40年。飛ぶことができない代わりに時速50キロくらいの速さで長時間走ることができます。

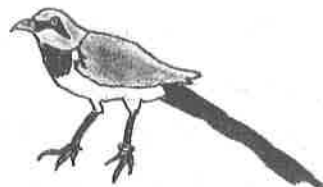
野生下では1羽のオスが複数のメスを縄張り内に囲い、群れて暮らします。オスと最優位なメスが交代で他のメスが産んだ卵も温めます。多くの卵がある場合は、最優位なメスが産んだ卵を真ん中にして他のメスが産んだ卵をはじくそうです。繁殖期のオスは、のどをふくらませながら汽笛のような低い声で「ブォ、ブォー」と鳴き、メスに対して翼を広げ体を低くして求愛のダンスをします。当園のオスは飼育係にも同様な姿勢をすることがありますが、それは縄張りを守るため侵入者を威嚇しているのだそうです。(czv 加)



③しあわせの青い小鳥？ — キンムネオナガテリムク —

アフリカ東部にすむムクドリ仲間です。その名の通り黄色いムネと長い尾羽が特徴で、顔から背中にかけては青色、光沢のある羽毛は陽の光が当たるととてもきれいです。他の鳥たちや4頭のナマケモノと共に、新しくなった動物科学館のバードホールにいます。同じ科のツキノワテリムクとよく似ていますが、尾が長いので見分けられます。木々の葉の中に隠れていることが多いですが、目の前にひょっこり現れることも。

エサはミールワーム、ペレット（配合飼料）など。野生では昆虫を好んで食べるため、飼育係さんがエサを与えると、ミールワームを目当てに真っ先にやってくることもあるそうです。当園にいるのは1羽だけ。ぜひ見つけてください。(czv 藤)



②たくさん食べて せっせと歩き回る — キンカジュ —

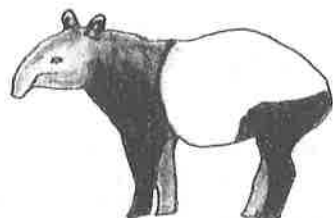
夜行性動物舎にいるキンカジュはアライグマの仲間、生息地はメキシコ南部からブラジルにかけての熱帯雨林。野生では高い木の上で一生のほとんどを過ごしますが、天敵のいない当園では床を歩き回り、互いにじゃれ合ったりする姿が見られます。長い胴体と同じくらいの長さのしっぽがあり、しっぽを木の枝にからめてぶら下がることもできます。舌も長く、花の奥にある蜜をなめます。グアバ、アボカド、マンゴーなどの果実や、昆虫、小鳥、鳥の卵などを食べる雑食性。当園でのエサはバナナ、リンゴ、キャベツ、蒸したサツマイモなど。体重は2kgほどで、1日に500グラムくらいのエサを食べます。

当園の3頭は母親と2頭の息子ですが、みんな似ていて見分けはつきません。(czv 金)



④おだやかな水辺の住人 — マレーバク —

世界に現存するバクのうちマレーバクは唯一アジア圏に生息し、温厚な動物で絶滅危惧種です。当園には2頭いて、オスのユメタは当園生まれの19歳、体重は約300kg。臆病な性格で好き嫌いもハッキリ。メスのカナエは多摩動物公園生まれの6歳で、2022年に来園しました。体重は約400kgで（バクは通常メスの方が大きい）、好奇心が強く何でも食べるそうです。草食動物で、当園では青草やキャベツ、園内の常緑樹（スダジィ・シラカシ・マテバシィ）の枝葉などを2頭それぞれ毎日約25kg食べます。フンは池の中で、オシッコは地上でします。後ろにスプレーし匂い付けすることもあります。水浴びが好きで、夏には泳いでいる姿が見られます。甲高い鳴き声が聞けることもあります。(czv Y)



⑤長い旅をする小柄な鳥

— オナガガモ —

晩秋にユーラシア大陸北部と北アメリカ北部から渡ってくる身近な野鳥で、日本各地の公園の池や海、湖沼で見かけられ、越冬のため春ころまで滞在しています。特徴は成長したオスの尾羽2本が長く突き出ているところで、名前の由来（尾長鴨）にもなっています。雑食性で水面に浮いている水草や植物の種を食べることが多く、ときには逆立ちして水中の水草などを食べたりするのがシンクロナイズドスイミングをしているような可愛い仕草です。普段は静かにしていますが、時々ピルピルと可愛い声で鳴くことがあります。

水郷池にいる2羽はいずれも当園で生まれたオスの2世です。国内で飼育している施設は多くはありません。近くでゆっくり観察してみてください。(czv 清)



⑥眼光するどい 父と息子たち

— クロザル —

当園のクロザルは、父のジョニーと2016年生まれのタイガ、2019年生まれのトウゴの3頭です。タイガは体も心も父に劣らないほど成長し、3頭の力関係が少しずつ変わってきています。

3頭は朝9時から午後2時半ごろまで外で過ごした後屋内へ戻ります。くだもの中心のエサはつねにほぼ完食。フィーダーを使ったエサやりを試しても、すぐ壊してしまう力強さを見せています。サルの仲間マカク属特有の「リップスマッキング」（くちびるをパクパクさせる）で仲間と意思を伝え合い、物音や人に反応して犬のように鳴くこともあります。

「今は仲良く過ごしていますが、力関係の変化にはこれからも注意が必要です」と飼育係さん。父と息子、そして兄弟の関係がこれからどう変わっていくのか、目が離せません。(czv 松)



★ボランティアが毎月第2、第4日曜にご家族で参加できるクイズ形式の動物ガイド「ZOOボラ・クイズ・DEガイド」をしています。当日園内放送でお知らせしますので、ふるってご参加ください。

★それぞれの動物がいる場所は下の地図をのぞいてください

⑦小さなツメの人気者

— コツメカワウソ —

13種のカワウソのうち最も体の小さな種で、東南アジアの河川など水辺に棲み、カエル、甲殻類、魚などを食べます。泳ぎが得意で足には小さな水かきがあり、目・耳・鼻・尾なども水辺の暮らしに適した体になっています。



当園ではハラパン（オス14歳）とルナ（メス12歳）が交代で展示場に出ています。エサは朝/キャットフード 昼/アジ 夜/ワカサギ、鱈、結若

を患いやすいので水分補給のため、キャットフードは水に浸し、魚は水の中で与えるなど注意深い体調管理がされています。

野生の個体数は減少していて、IUCN レッドリストでは「VU：危急」。見た目が可愛いので飼いたくなる人もいるかもしれませんが、ワシントン条約で国際取引は禁止されており、個人が買うことで密輸・密猟が助長されます。動物公園で見て楽しむだけにしてください。(czv N)

①ダチョウ（平原ゾーン）

黒くて大きいのがオス

茶色いのがメス

★動物イラスト：CZV Kana

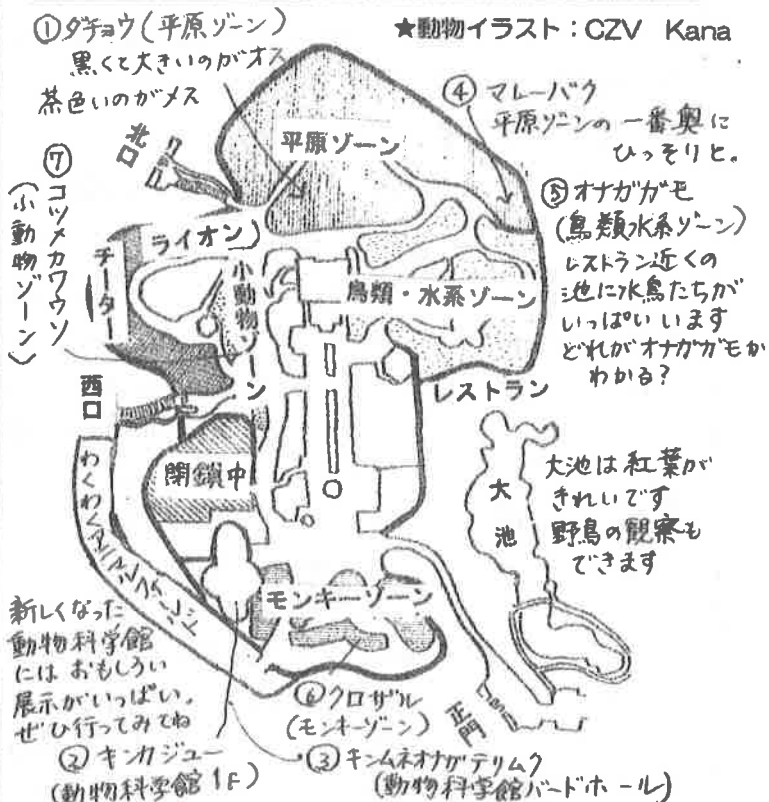
④ マレーバク

平原ゾーンの一番奥にひっそりと。

⑤オナガガモ

（鳥類水系ゾーン）

レストラン近くの池に水鳥たちがいっぱいいます。どれがオナガガモかわかる？



新しくなった動物科学館にはおもしろい展示がいっぱい。ぜひ行ってみてね

② キンカジュ（動物科学館1F）

⑥ クロザル（モンキーゾーン）

③ キンネオナガテリムク（動物科学館バードホール）

残念ながらクロザルのジョニーは11月28日に死亡しました